

皆さん久しぶりです！二校パークゴルフ交流会



山部校の皆さんとの久しぶりの合同学習でした。パークゴルフと応援と散策とに分かれての間接的な交流会で物足りなかったかもしれませんが、青空の下、山部の空気と自然に触れながら、リフレッシュができました。とても楽しかったです。

新型コロナウイルス感染防止で不安な毎日ですが、正しくウイルスへの恐怖を知り、ウイルスと共存しなくてはなりません。

勿論、今までとは異なりますが、新しい間接的なコミュニケーションの積み重ねが大事だと思っています。

この日のために、雨天のことも考え、多目的アリーナをインドアパークゴルフ場に出来るよう準備していただいていた山部校事務局の皆さんに感謝しています。

今後、スポーツセンターでの「フロアカーリング交流会」、文化会館大ホールでの「狂言講座」、「映画鑑賞会」を合同で行う予定です。ソーシャルディスタンスを守り楽しい時間にしましょう。

さて、本日は今年度第一回目のクラブ学習となります。本来ならば、講師の先生を皆さんにご紹介するところですが、三密を避けるためにも各会場で行うこととしました。よろしくお願いします。

また、「踊り」「コーラス」も今日からスタートします。

ウイルス感染防止を踏まえ上での活動になることはいまでもありません。全員で協力しあいながら楽しい活動にしましょう。

少し細かなスケジュールですが、よろしくお願いします。

令和2年9月16日(水曜日)

自治会～

来週23日(水曜日)の遠足のお弁当の
最終集約日です。朝の段階で人数確定します。

- 8時45分 本科4年・大学院1年生当番
- 9時15分 朝の集い 校歌視聴
各クラブ学習の準備(消毒・除菌)
- 10時00分 クラブ学習
- 12時00分 昼休み・休憩(山部校バス発)
- 13時00分 「コーラス①」大ホール
～ 「踊り①」 大会議室
- 13時40分
コーラスは大ホールです。踊りも大会議室をいっぱいに使用しますが、今回は第1回目ですので、短時間で行います。さらに休憩をとりながら進めます。
- 13時50分 音楽鑑賞(DVD)大ホール
フジコヘミングの世界
ショパン「ノクターン」他
- 15時00分 後片付け 終了

◎クラブ学習についての連絡

学習場所は、昨年度と同様です。

書道クラブ(大会議室)

切り絵クラブ(第1会議室)

絵手紙クラブ(中会議室)

茶道クラブ(和室B)

陶芸クラブ(ふれあいセンター)

★各使用教室いっぱいを使用し、隣りどうし前後の間隔を開け、ソーシャルディスタンスを守ってください。

★切り絵クラブと絵手紙クラブにつきましては、事務局で設定させていただきましたが、消毒を含め、各クラブの皆さん全員で講師の先生が来られる前に準備をお願いします。

また、三密を避ける上でも全体での紹介はしませんので、各クラブごとで講師の先生との紹介をしてください。

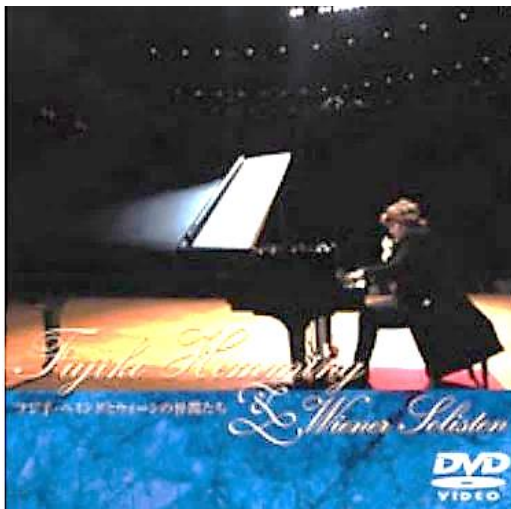
◎「コーラス」「踊り」も第1回目です。

どちらも、講師の先生の指示や注意事項を守り、無理のないところでスタートしましょう。

音楽鑑賞

フジコ・ヘミングとウィーンの仲間たち

2001.4.8 サントリーホール



曲目リスト

1. 夜想曲第2番変ホ長調op.9-2(ショパン)
2. 練習曲イ短調op.25-11「木枯らし」(ショパン)
3. 「愛の夢」第3番(リスト)
4. バガニニ大練習曲集・種「ラ・カンパネラ」(リスト)
5. クラリネット四重奏曲変ロ長調op.79-1(原曲:ピアノとヴァイオリンの爲のソナタK.378)(モーツァルト)
6. ピアノ五重奏曲イ長調D.667「ます」(シューベルト)
7. ピアノ・ソナタ11番イ長調K.331~トルコ行進曲(モーツァルト)
8. ハンガリー舞曲第5番(ブラームス/ヴェニガー編)※(映像特典) リハーサル風景(ます)演奏者へのインタビュー

私が唯一持っている音楽DVDがこのフジコヘミングのアルバムです。フジコヘミングはベルリン生まれ。現在87歳です。

…誰が弾いても同じなら私が弾く意味なんてない。だから私は私だけの音を大切にしている…ぶっ壊れそうなカンパネラがあったっていい。魂が燃え尽きるほどのノクターンがあったっていい。機械じゃないんだから…今も捨て猫をたくさん育てているそうです。一時国籍がなく難民状態…苦しい生活を送りながら60歳になってからデビュー、小さい頃から母親の厳しいピアノ教育を受けたそうです。コンサートでミスをするとう観客席から母親の咳払いが聞こえる…とても嫌だったそうです。…結果は最後までわからない…夢が叶おうが叶うまいが、どんなに歳をとっていようがいまいが、失望して生きるより夢や希望を持った生き方がいいのに決まっている…と、

今日は久しぶりのクラブ学習と午後の「踊り」「コーラス」お疲れの体を癒しましょう。ここでちょっと休憩です。フジコヘミングの奏でるショパンの「ノクターン」、リストの「ラ・カンパネラ」を聴いてみましょう。

NEXT SCHEDULE

令和2年9月23日(水曜日)

＜秋の遠足＞

※雨天時：フロアカーリング又は

音楽鑑賞・映画鑑賞

(中止の連絡：8時に連絡網で行います)

9時10分◇東山支所発

10時00分◇集合：スポーツセンター駐車場

(陸上競技場側)

(車の誘導は事務局がします)

10時20分◇出発

11時00分◇六花亭 休憩

12時00分◇昼食 ワイン工場の広場

お弁当を食べます

ワイン工場見学・トイレタイム

13時30分◇スポーツセンター着 解散

昨年の春の遠足と同じですが、歩く距離を短くしました。スポーツセンターから2.4 kmほどで40分位でしょうか。勿論不安のある方は車に乗ったり、歩いたり無理のないところで徒歩での遠足を楽しみたいと思います。

車の方は、昨年と同様に、昼食会場での広場でビニールシートを敷くのでお手伝いください。

なお、本日、**お弁当の申し込み最終日**となっておりますので、変更も含めて参加者の報告をお願いします。

また、悪天候で遠足が中止の時は、大会議室、中会議室にてフロアカーリング、映画鑑賞、音楽鑑賞などを実施する予定です。**雨天でもお弁当はあります。**

文化会館10時に集合ください。

中止の時は、8時から随時連絡網にて連絡をしますので連絡網の確認をお願いします。

源氏物語＝平安時代の世界に触れる

平安時代には、源氏物語の紫式部、枕草子の清少納言をはじめ、蜻蛉日記、更科日記、和泉式部日記など有名な女流文学が生まれています。

「あらざらむ この世のほかの思ひ出に 今ひとたびの逢うこともがな」百人一首で有名な和泉式部の歌ですが、その子、小式部内侍(こしきぶのななし)も「大江山 いく野の道の 遠ければ まだ文も見ず 天橋立」と有名な歌を残しています。

百人一首の意味を学んだという記憶がとても薄いですし、カルタですから早くするのが目的?! しかも下の句カルタです。歌に込められた「心」・「気持ち」は二の次になっているようです。とても残念です。

この2つの歌の現代語訳だけをご紹介します。

「あらざらむ この世のほかの思ひ出に 今ひとたびの逢うこともがな」

(わたしはこのままこの世からいなくなってしまう。来世の思い出にもう一度あなたにお会いしたいです…)

—和泉式部が体調がとても悪かったころ、恋人のもとに使者を立てて送った歌だそうです。—

「大江山 いく野の道の 遠ければ まだ文も見ず 天橋立」

(母の和泉式部がいない歌合で娘の小式部内侍が詠んだ歌だそうです。その歌合にいた藤原定頼が意地悪をして、お母さんが遠くにいて歌を送ってもらうのは大変ですね…使者を出して歌を送ってもらっているのですかと…) その返歌がこの歌だということです。

才能ある小式部内侍、母の和泉式部が代作しているのではないかという噂があったようです。これで実力が認められたとうことですね。



和歌を現代語訳にするだけではなく、どのような状況や心境の中で詠まれているのかを知るにより、今までの歌に対する係わり方が随分違ってきます。

蜻蛉日記も当時は一夫多妻制、作者の藤原道綱母の夫である藤原兼家の浮気を嘆いての心境を詠ったものだということです。ちなみに日本の三大美人の代表格がこの藤原道綱母だということですが……人それぞれ価値観も美的感覚も違いますから……

源氏物語から貴族社会の様子が見えてきますし、歴史もあっちに行ったりこっちに来たりと、とても広いのですが必ずどこかで繋がっています。

平安時代は400年もの長い間続きました。中学校の歴史から言えば、鳴くよ(794年)うぐいす平安京～いい国(1192年)つくろう鎌倉幕府、政治の中心が奈良→京都→鎌倉に移る時代、日本の首都は京都にあったということです。平安時代の平安、平和で安全な時代にしたいとの桓武天皇の思いもあったのでしょうか。それでは平和でなかったその前の平城京や長岡京について知りたくなるものですね。さて、30日(水)の午後の源氏物語その3に続きます。



映画同好会じょうえいかい

令和2年度第1回目の映画上映会を9月24日(木)10時から開催します。

会員の皆さま方の参加をお待ちしております。この上映会終了後に、これから上映する映画の希望調査を実施したいと思います。

なお、今回の映画ですが、只今検討中です。大変申し訳ありませんが、当日のお楽しみということでご了承ください。



これからのことぶき大学について

30℃越えの暑さも忘れるほど気温の低い日が数日続いています。皆さん体調はいかがですか。

久しぶりの二校交流会でした。太陽の里の散策もとても楽しかったです。手の届く所にキウイのような実がなっており、それが「栃の実」だということを山部校の長澤さんに教えていただきました。私が上富良野に住んでいた頃、学校前の神社に栃の大木があり、妻と娘が栃の実を拾ってお餅をつくった記憶が蘇ってきました。…もう25年前のことです…

今回は、インターンシップで社会教育のスキルを学ぼうと緑峰高校2年生の番屋さんが3日間の研修にきました。番屋さんには、今回の会場となった太陽の里の下見から始まり、当日はカメラマン、撮影後の写真のデータ整理もしていただきました。番屋さんの誠実さがとても清々しく、一生懸命に頑張る姿に感動しました。番屋さんお疲れさまでした。

さて、これから令和2年度、後半が始まります。この見えないウイルスとの共存が今後続くことも考え、次年度以降のことぶき大学の姿を描いているところです。

作家の五木寛之がこう言っています。…2025年には3人に1人が65歳以上の高齢者になる時代。一人一人の高齢者が「賢老」つまり賢い老人になって自律した人間として生き生き暮らせる世の中になることが大切。若い世代も高齢者もお互いがお互いの立場や身になって希望ある社会をつくっていくこと。これからの勝負！と……いろいろなことを学び、考え、賢く生きる高齢者こそこれからの時代の高齢者だということです。

そのための魅力溢れることぶき大学を目指していきます。！！

